

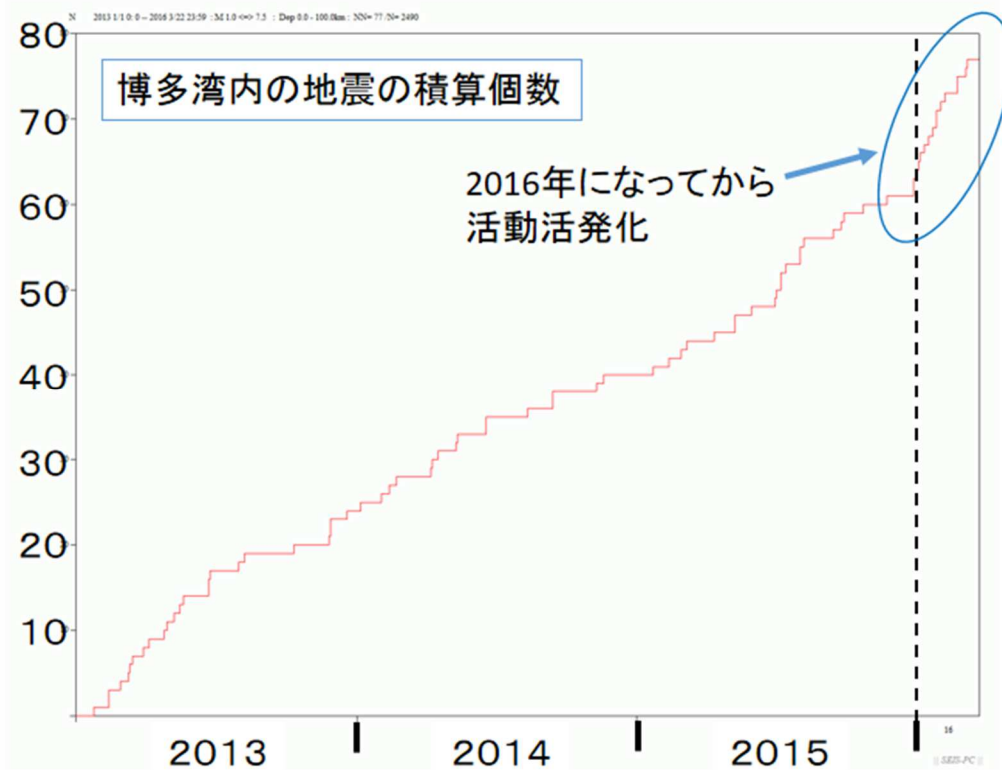
九州北部の地震活動

2005年3月20日に、福岡県西方の玄界灘でマグニチュード7.0の地震が発生した事をご記憶の方も多いかと思います（福岡県西方沖地震）。この地震は福岡市付近では有史以来最も大きな地震で、未知の断層で発生した地震でした。この断層の延長線上に、福岡市直下を通過する警固（けご）断層と呼ばれるM7クラスを繰り返し発生してきた活断層が存在しています。

3月に入り、博多湾内で微小地震活動が活発になってきました。九州大学は西日本新聞に極めて異例のコメントを発表しています（<http://www.nishinippon.co.jp/nnp/science/article/231660>）。なお西日本新聞のリンクが切れている場合は以下のアーカイブをご参照下さい。

www.sems-tokaiuniv.jp/doc/Kego_news.pdf

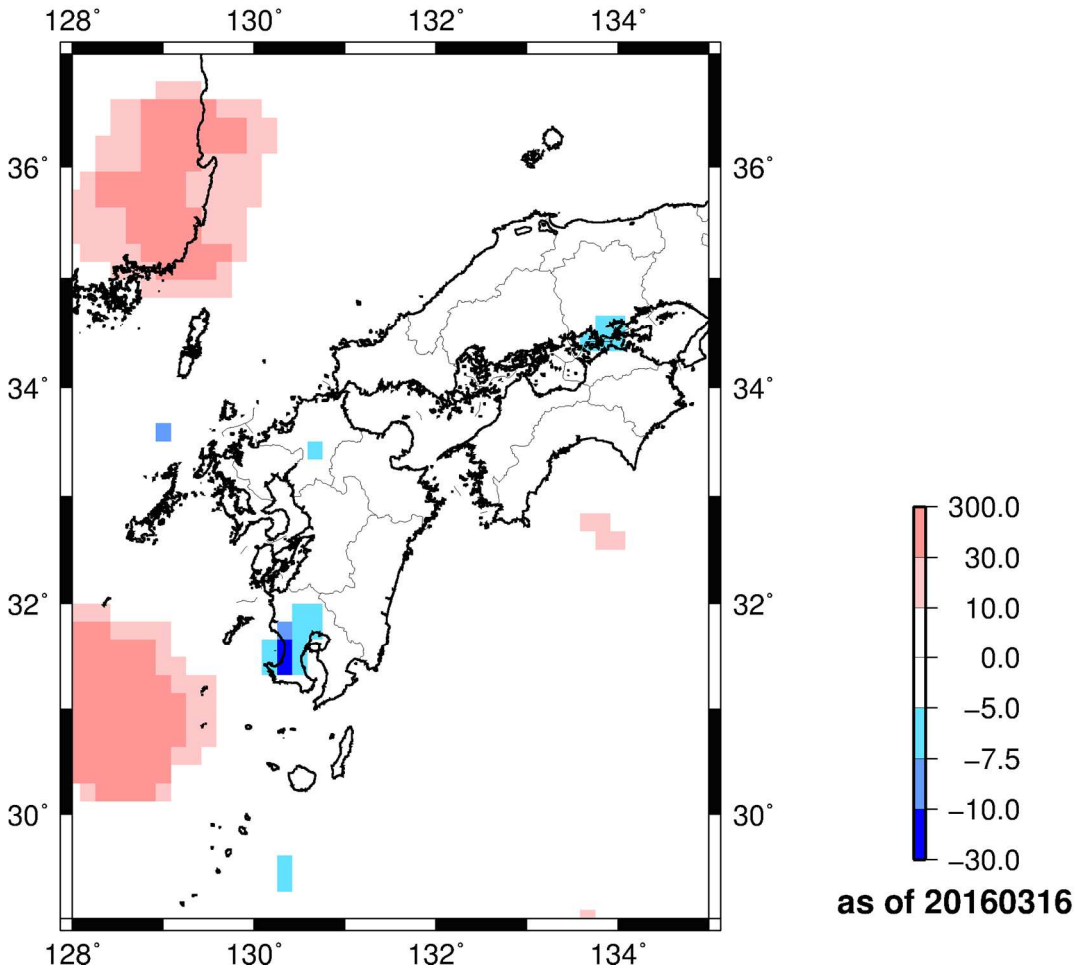
実際、どのように地震が博多湾周辺で増加しているかを確認したのが下の図です。今年に入って、グラフの傾斜が大きくなっている（つまり地震発生が増えている）事がわかります。



九州・四国・中国地方の地下天気図

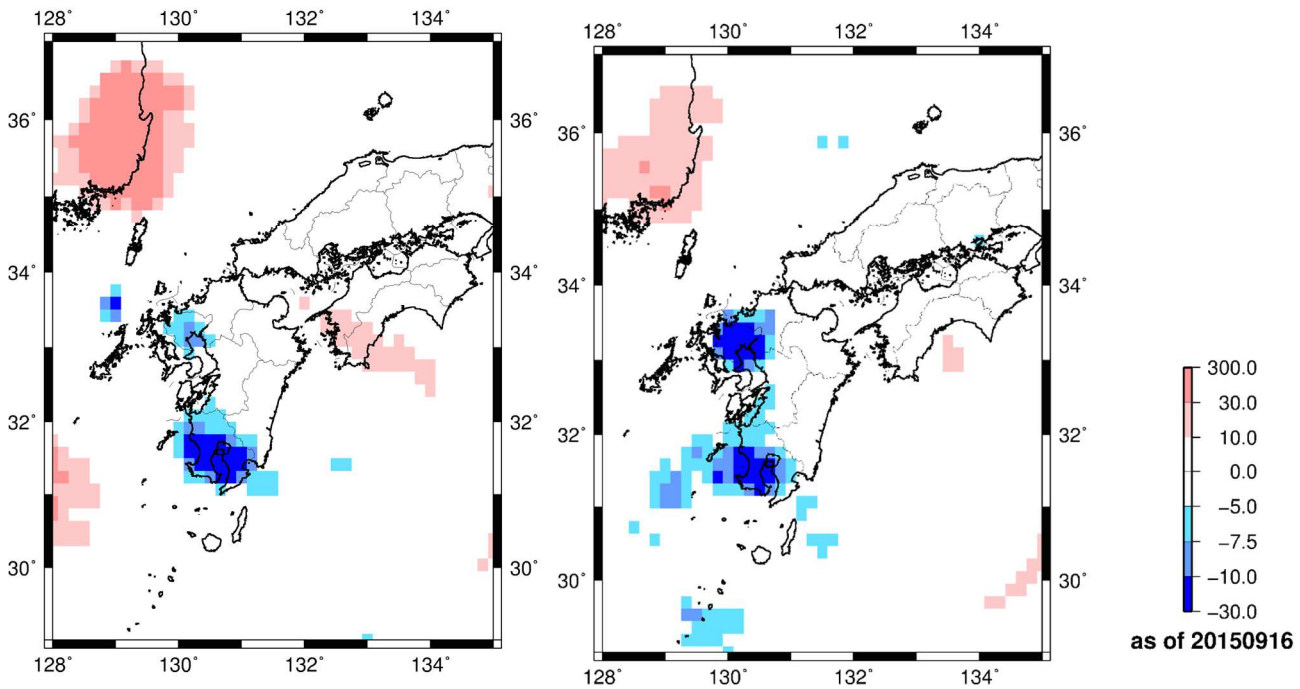
警固断層のニュースもあり、今回のニュースレターでは九州を中心とした地域の地下天気図を作成してみました。ここでお示しする図は2016年3月16日時点（最新のもの）と、その3か月前（2015年12月16日）および6か月前（2015年9月16日）のものです。6か月前の地下天気図に明瞭ですが、九州北部と鹿児島県地方に青い地震活動静穏化領域が広がっており、それが徐々に小さくなって、特に九州北部では、静穏化現象が終了しつつあるのがわかります（注意：静穏化が終了した後に地震が発生する可能性大）。

ただ、予想されるマグニチュードは7ではなく、6クラスの地震で、きちんとした建物であれば、倒壊する可能性はほぼありません。確かに九州北部ではM6クラスの発生準備が整ってきたと考えられます（鹿児島周辺は、まだ発生しない可能性が大きいと考えています）。



最新の地下天気図

九州北部の静穏化がほぼ消えている事がわかります。



昨年12月16日の地下天気図

昨年9月16日の地下天気図